７－８　北陸-近畿および近畿-山陰地殻活動総合観測線における連続観測結果（1998年２月～1999年１月）

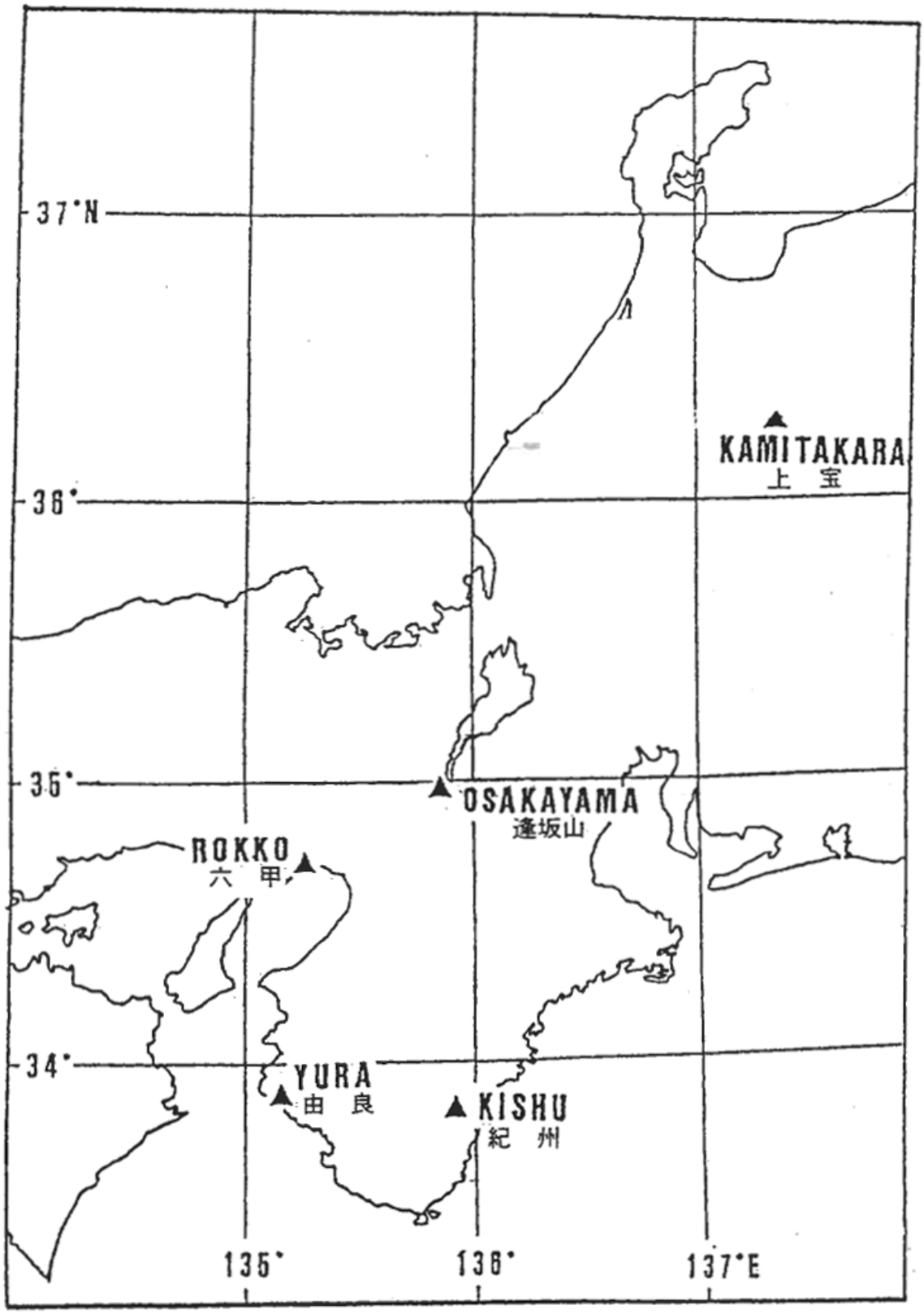
Results from Monitoring Chains of Crustal Activities in Kinki District (February 1, 1998-January 31,1999)

京都大学 防災研究所・理学研究科
Disaster Prevention Research Institute and
Graduate School of Science,
Kyoto University

北陸-近畿および近畿-山陰の両地殻活動総合観測線を構成する観測点のうちから, 第1図に示す上宝, 逢坂山, 由良, 六甲鶴甲および紀州の５観測点で観測された最近１年間（1998年2月1日 - 1999年1月31日）の地殻ひずみおよび傾斜を第２図から第６図に示す。

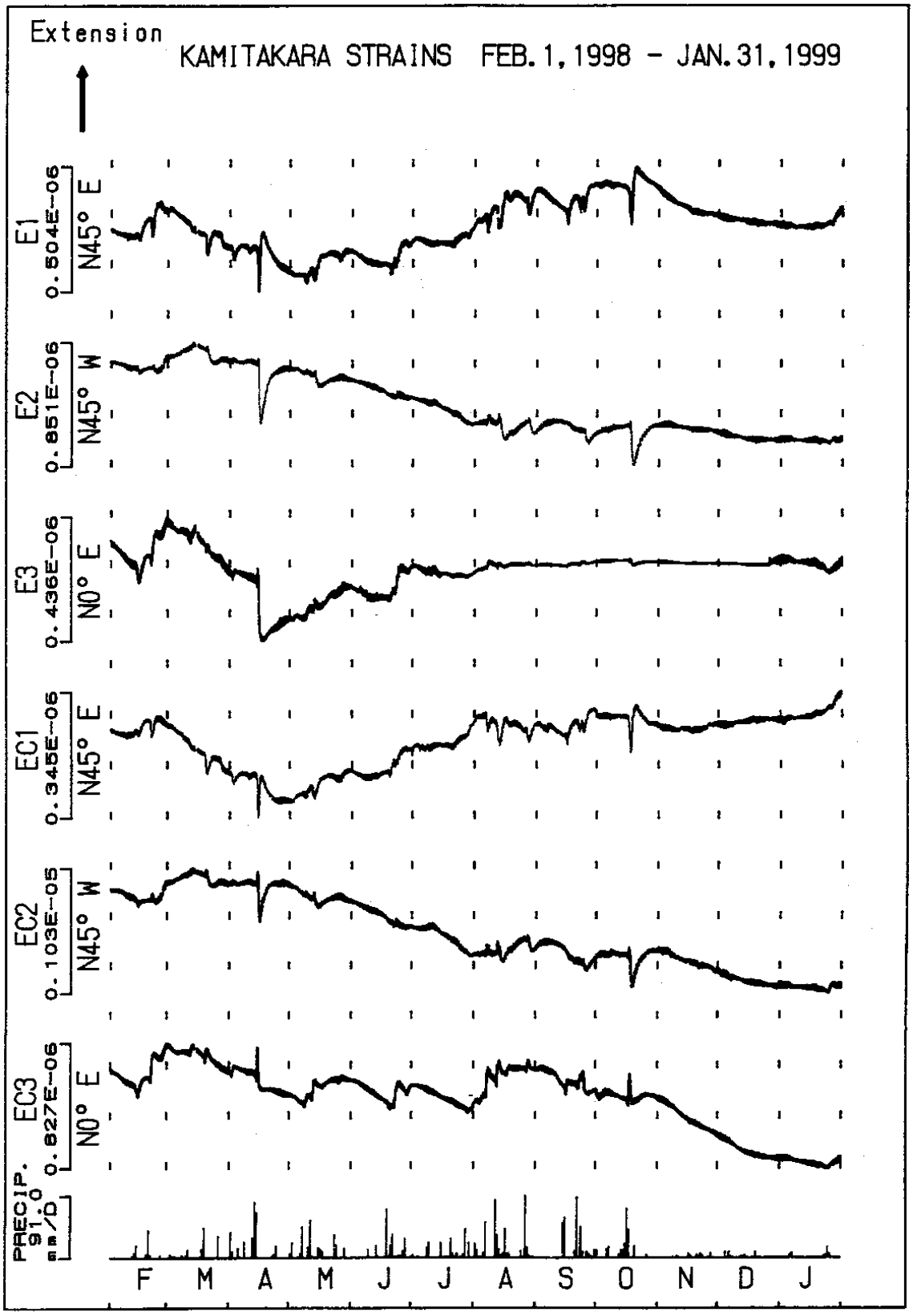
これらの記録には降雨あるいは計器の不調による変化を除いて，この期間にとくに取り上げて議論するべき変動は見られない。

なお，紀州では，第5図上段の図に見られるように，3台の水管傾斜計を設置して観測を行っているが，下段のベクトル図はN89EおよびN129Eの2台を用いて求めた結果である。両者の設置方向が直交していないため，南北の傾斜は誇張される傾向にあることに注意されたい。



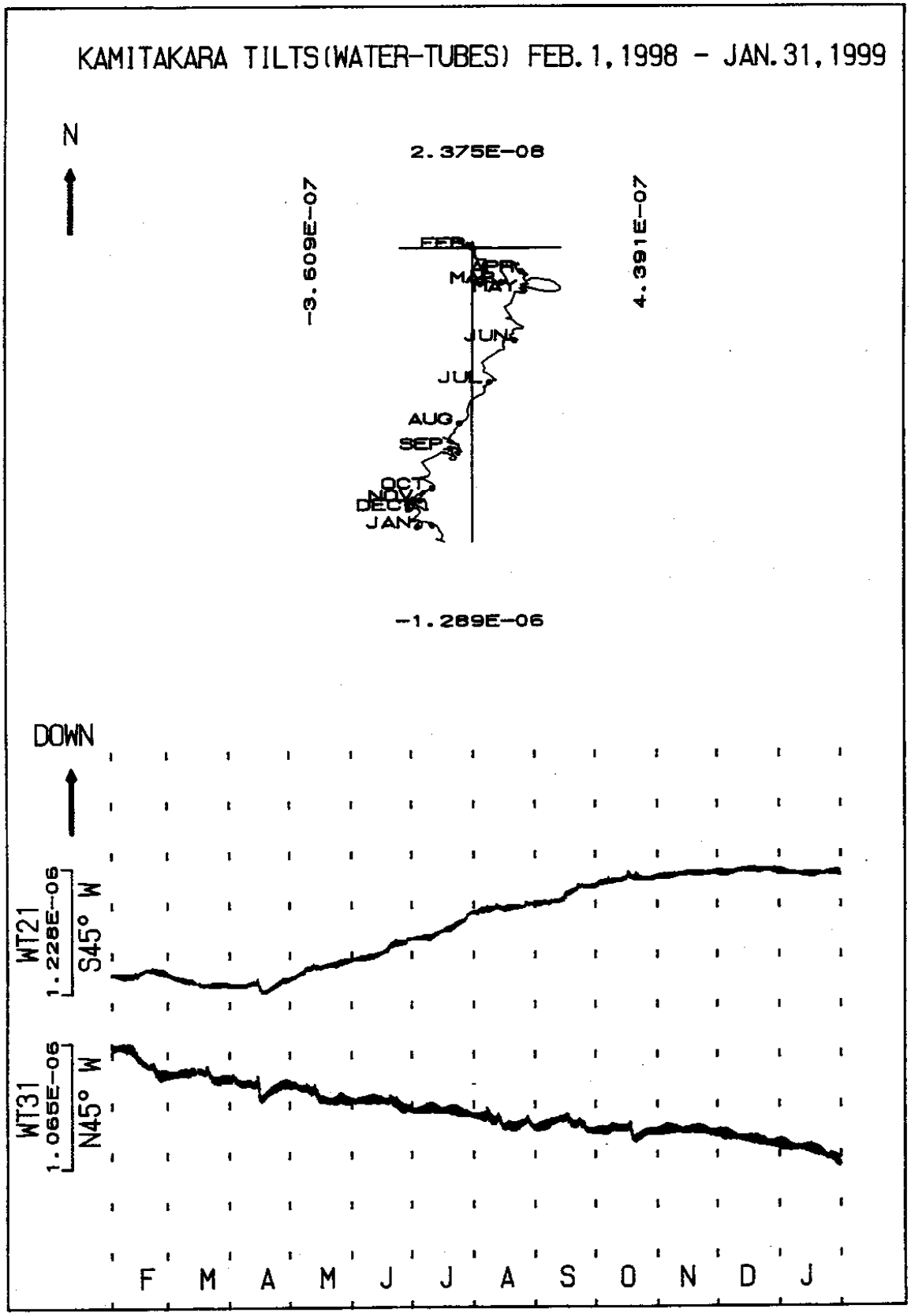
第１図 観測点の位置図

Fig.1　Observation stations.



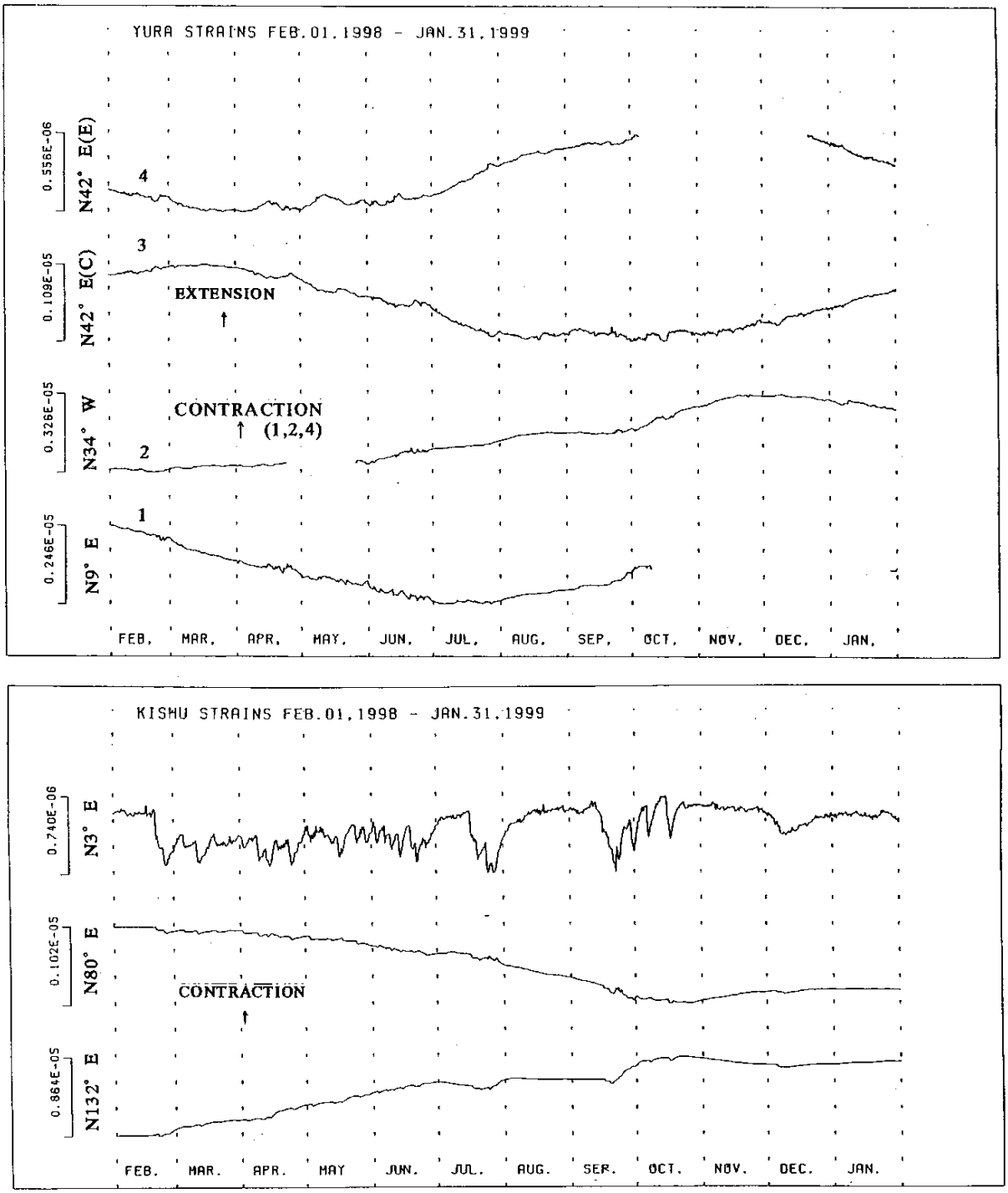
第２図 上宝におけるひずみ変化（1998 年 2 月～1999 年 1 月）

Fig.2 Strain change at Kamitakara (February 1998 - January 1999).



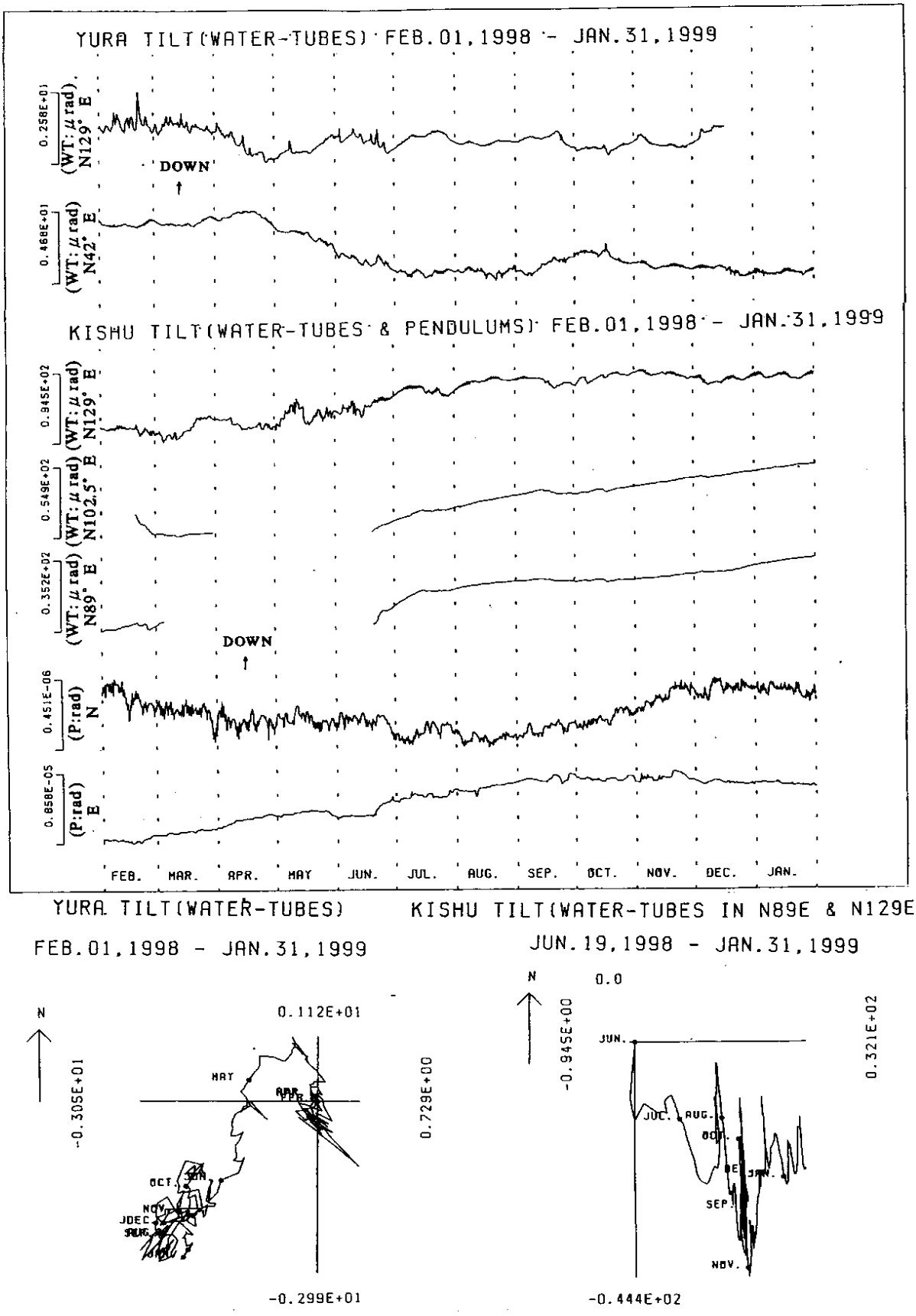
第３図 上宝における傾斜変化（1998 年 2 月～1999 年 1 月）

Fig.3 Tilt change at Kamitakara (February 1998 - January 1999).



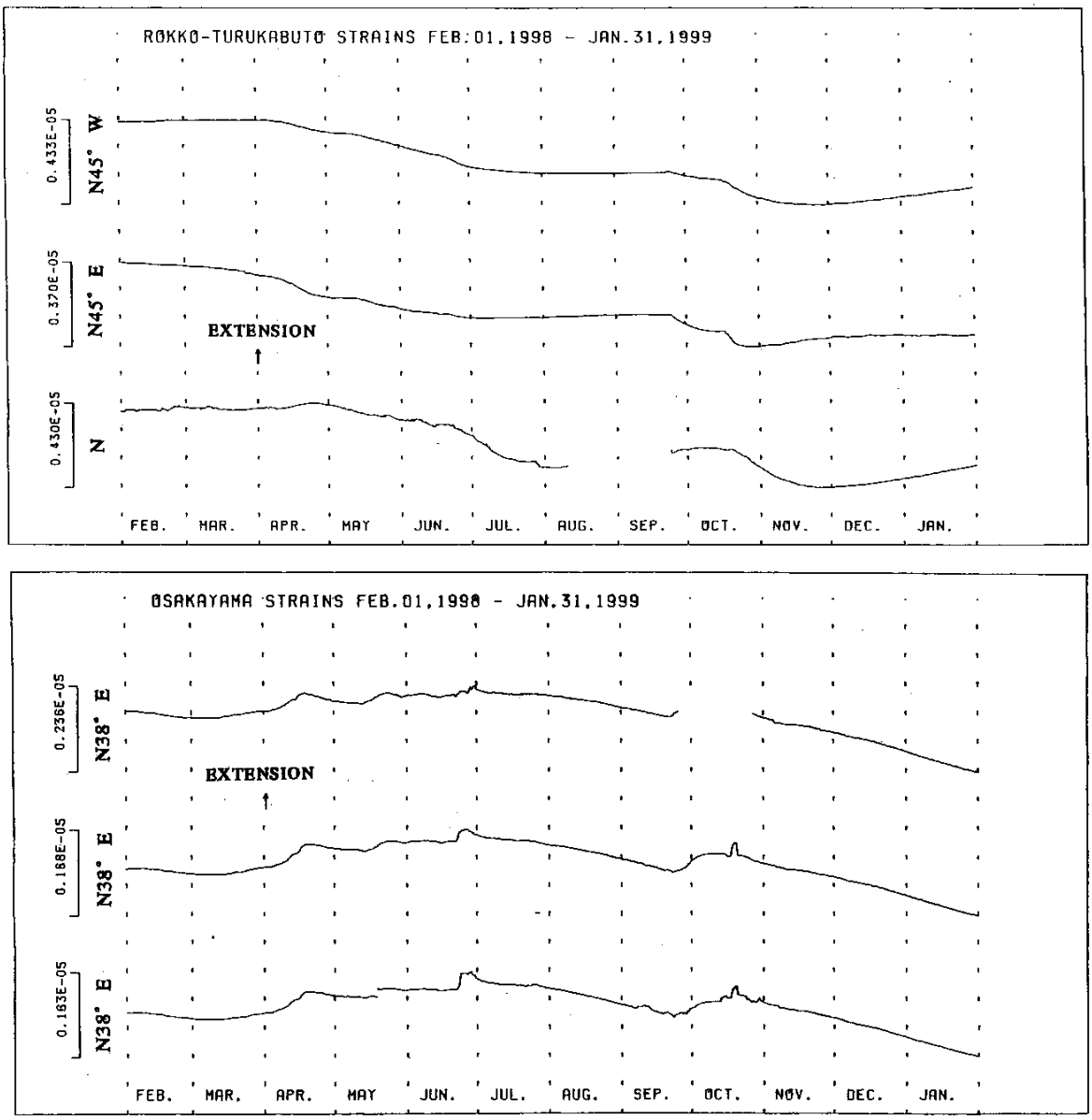
第４図 由良および紀州におけるひずみ変化（1998 年 2 月～1999 年 1 月）

Fig.4 Strain changes at Yura and Kishu (February 1998 - January 1999).



第５図 由良および紀州における傾斜変化（1998 年 2 月～1999 年 1 月）

Fig.5 Tilt changes at Yura and Kishu (February 1998 - January 1999).



第６図 六甲鶴甲・逢坂山におけるひずみ変化（1998 年 2 月～1999 年 1 月）

Fig.6　Strain changes at Rokko-tsurukabuto and Osakayama (February 1998 - January 1999).